
コエ

柊 乙

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コエ

【Nコード】

N0515C

【作者名】

柊 乙

【あらすじ】

盲目の少女美優と優しい少年都音。2人の心の交流。

どこかで声が聞こえた

随分前から気になっていた、喫茶店2時の少女。
多分年齢は俺と同じくらいで、とても整った顔立ちをしていた。

いつも午後2時に駅前の喫茶店に来て、読書している。
それから5時までいて、5時を過ぎるとすらりとした体躯の青年が
迎えに来る。

恋人だろうか。青年もなかなかの美青年で2人はお似合いだ。

今の時刻、午後3時半過ぎ。青年が来るのにはあと1時間以上ある。
話しかけてみるのもいいかもしれない。俺は、喫茶店に入った。

ここ「GLEAM」は空いていれば勝手に席を選んでよい。
だから、カウンター席に座る彼女の隣にそっと座った。

「・・・・・・・・麗？」

急に彼女が言葉を発したものだから驚いた。

「え。あの、俺、麗じゃないです」

「あ・・・・・・・・ごめんなさい」

謝罪の言葉を呟く彼女を見て、また驚いた。
彼女はこちらを見ているけど、瞳は俺を映していない。
どこか遠くを見ているのだ。

「すみません、失礼なんですけど・・・目見えないんですか？」

言ってから後悔した。

赤の他人が訊くべき事じゃない。

けれど、彼女は柔らかく、しかし申しわけなさそうに

「そうなんです」

と呟いた。いつも遠くから見ていてただの美少女だと思っていたが至近距離で見ると悲しげな雰囲気漂う人だった。

「あの、私人の声覚えるの苦手で・・・お名前聞かせてもらってもいいですか？」

「かわはらとおと河原都音です」

「トート？」

彼女が言うと、都音とおとなのに都音トートみたいだ。

でも俺は一瞬にしてこの響きが気に入ってしまった。

いいじゃん、都音トート。

「どこかでお会いしましたっけ？」

「すみません、何となく隣座っただけなんです。君の名前も教えてください」

彼女は躊躇いがちに微笑んで、

「中野美優^{なかのミユ}です。高2です」

「あ、俺も高2なんです。なんかタメ語にしませんか？」

「そうだね。変だもんね、敬語じゃ」

ミユのタメ語は俺のクラスにいる女子なんかよりずっと優しい感じだ。

多分ミユがすごい年下だとしても、このタメ語ならム力つかない。

不意に「どこかで声がした」という曲が聞こえた。何だっけこの歌・
・どっかで聴いたような。

その綺麗なメロディーを流す、時計を見ると、もう4時。
あの美青年に出くわすと面倒だ。

「もう、4時か。じゃあ、ミユ・・・ちゃん。また話せたら」

「呼び捨てでいいよ。ばいばい、トート」

店を出て思い出した。

「どこかで声がした」は中学の時の合唱祭で歌った曲だ。

君の声 もう思い出せない

君の顔 もう思い出せない

先に忘れたのはどちらだろう

どこかで君の声がした

また会えるだろうか

さよならを言った君の声

それさえも忘れた僕を

優しく光が 包む・・・・・・・・

口ずさみながら、俺は家路についた。

優しい夕陽が俺を包んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0515c/>

コエ

2010年10月15日20時41分発行